

## 令和7年度 今宮中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	45	48	47	9.5	16.1
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	460
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 今宮中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

＜国語＞ 平均正答率を全国と比較すると、6.3ポイント届かなかった。問題別に比較すると、「文脈に即して漢字を正しく使うことができるか」や「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるか」を測る問題など全14問中4つの問題で全国の正答率を上回ることができた。また、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるか」を測る問題では、全国の正答率に比べて、4ポイント高い結果となった。

＜数学＞ 平均正答率を全国と比較すると、1.3ポイント届かなかった。問題別に比較すると、「相対度数の意味を理解しているかどうか」や「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるか」を測る問題など全15問中5つの問題で全国の正答率を上回ることができた。また、「素数の意味を理解しているかどうか」を測る問題では、全国の正答率に比べて39ポイント以上、「多角形の外角の意味を理解しているか」を測る問題では、全国の正答率に比べて、6ポイント以上も高い結果となった。

＜理科＞ 平均IRTスコアを全国と比較すると、43ポイント届かなかった。問題別に比較すると、「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうか」や「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうか」を測る問題など全22問中3つの問題で全国の正答率を上回ることができた。また、【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうか」を測る問題では、全国の正答率に比べて、6ポイント以上高い結果となった。